

2018年3月12日

各位

イーピーエス株式会社

**産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）  
「量子アプリ共創コンソーシアム」に参画**

～安全・安心・スマートな長寿社会実現のための高度な量子アプリケーション技術の創出～

イーピーエス株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：田中 尚、以下EPS）は、2017年9月28日付で国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）<sup>\*1</sup>」における2017年度の新規研究領域・共創コンソーシアムに採択された「量子アプリ共創コンソーシアム（英語名称：Quantum Innovation for Safe and Smart Society、以下QiSS）」に参画いたします。

QiSSは、量子<sup>\*2</sup>を高度にコントロールする新しい技術を産学共同で研究し、超スマート社会の安全を支える基盤技術の開発や、QOLの高い健康長寿社会を実現する量子を用いた新規医療応用技術の開発を目指すプロジェクトです。

EPSは、大阪大学および国立医薬品食品衛生研究所と共に「放射性薬剤の取扱安全基準の構築」を目的とした研究開発課題（核医学治療の臨床応用を踏まえた非臨床試験における有効性・安全性の評価法の確立）に取り組めます。

【核医学治療について】

核医学治療は、放射性同位元素を体内に投与する治療方法であり、主にがんの治療に用いられます。薬剤の特性として、疾患部位に選択的に放射線を照射することが可能となり、疾患部位でのがん細胞破壊等の効果が期待されます。また、QiSSでは、効果を示す時間が短い放射性同位元素（短寿命核種）の活用を検討しており、治療時間の短縮によるQOLの向上が期待されます。

核医学治療に関する取扱安全基準は、日本のみならず欧米でも未確立であり、さらに短寿命放射性核種への適切な評価法の確立を目指すこのプロジェクトの新規性・優位性は極めて高いものです。

EPSはこの研究開発課題において、核医学治療薬剤の製造販売承認取得を見据えたGLP省令<sup>\*1</sup>やGCP省令<sup>\*2</sup>等に関する課題解決及びガイドライン等の研究開発基盤の整備を支援致します。

またEPSは、この共同開発研究への参画を通じて、基礎研究の段階からの医薬品開発に関する知見を備えた人材を育成し、今後の創薬開発を支援して参ります。

尚、プロジェクトの詳細につきましては、QiSS のホームページ (<http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/~qiiss/>) をご覧下さい。

EPSは、社名の由来である「日々新たに、また日に新たなり (Ever Progressing System)」が表すように、絶えず自らを変革・進化させながら、これからも医療・ヘルスケア産業の発展に貢献します。

以上

---

1) 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA)

国立研究開発法人科学技術振興機構の産学連携による共同研究を推進するための支援プログラム  
<http://www.jst.go.jp/pr/info/info1280/index.html>

2) 量子

物理量の最小単位。本コンソーシアムでは放射性核種・中性子・ミューオンなどが対象

3) GLP省令 (Good Laboratory Practice)

医薬品の安全性に関する非臨床試験の実施基準

4) GCP省令 (Good Clinical Practice)

医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令

【本件に関するお問い合わせ先】

イーピーエス株式会社

営業部営業推進課 広報担当 齋藤雅恵

Tel : 03-5804-7577 E-mail : [koho@eps.co.jp](mailto:koho@eps.co.jp)